

### Ⅲ. 活動のコツ

#### 1. 地域の特性



地域日本語教室のいいところは、地域や生活に直結したことが学べることでしょう。学習者もボランティアも同じ地域に暮らしている人が多いので、生活に直結したことを題材にでき、ボランティアも同じ住民として一緒に学んだり、考えたりできます。また、地域のことを知ると、地域や地域の人々により親しみを感じることでしょう。

Q. 地域のどんなことを題材にしたら、生活に直結したことが学べるのでしょうか。  
町には、どんな題材があるでしょうか。

##### ●地域／町のイベント

例：桜祭り、七夕祭り、盆踊り、  
花火大会、フリーマーケット、  
公民館祭り、除夜の鐘つき

---

##### ●町の面白どころ

例：観光名所、温泉、商店街、公園、  
ショッピングセンター、自然（山、川、海）

---



##### ●町の今と昔

例：街道、旧跡、  
〇〇地蔵

---

##### ●町の情報

例：多言語情報、病院、健康診断、住宅、  
出産子育て、学校、防災、ハローワーク、  
役所（住民登録など）、スポーツ、  
公共施設、サークル

---

##### ●地域の特産物など

例：鎌倉彫、  
秦野落花生、  
横須賀刃ガヤ、  
三浦大根、  
小田原梅干し

---



## 2. 対話のヒント

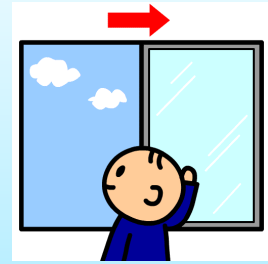
### (1) ひらいた質問/とした質問



ボランティアからの問いかけで、活動がスタート…  
でも、その問いかけ質問にも、学習者が答えやすい質問と  
答えにくい質問があります。

#### ● ひらいた質問 Open Question ●

どんな/どう/どうやって/どうして(なぜ)/どのように/  
いつ/どこ/だれ/何…



→特に「どんな～どのように」は、答えの自由度が高すぎて答えにくい。  
→しかし、話が深まる可能性がある。

日本はどう  
ですか？

住みやすい

交通が便利

人が親切

物価が高い



どれを答えたらいいのかな？  
いいことばかりじゃないけど…

まあいいか…

とてもいいです。

うーん、  
何がいいの  
かな？



● とじた質問 Closed Question ●

Aですか / AとB、どちらですか



→ 「はい」「いいえ」など、一言で答えられるような質問形式で、答えやすい。

→とはいえ、一問一答で会話が深まらないことも…

日本の食べ物は  
食べられますか？

はい、大丈夫で  
す。でも、納豆は、  
だめです。



日本語初級者であるほど、とじた質問を使うと、答えやすくなります。  
ただし、一問一答式にならないように、内容が深まるような工夫も必要です。

◆例：「ひらいた質問」 → 「とじた質問」

ひらいた質問	とじた質問
「最近、どうですか。(学校/仕事は、どうですか。)」	「毎日、忙しいですか。」
「ここまで、どうやってきましたか。」	「ここまで電車で来ましたか。」
「 <b>どんな</b> 食べ物が好きですか。」	「果物は好きですか。」
「 <b>どんな</b> 音楽が好きですか。」	「クラシック(音楽)は好きですか。」
「携帯電話を買いました。」 →  「 <b>どうして</b> 買いましたか。」	「前の携帯電話がこわれましたか。」



考えてみよう 下に出したのは、『つながる にほんご』 p39 「3.1 話 生活習慣」です。

3
健康  
 ~ 1話 生活習慣 ~

1. まいにち どのような 毎日ですか？

(1) こんしゅう 今週、なに 何か うんどう 運動を しましたか？

(2) ゆうべ ゆうべ なんじかん 何時間 ねましたか？

(3) けさ 今朝、なに 何を たべ 食べましたか？

2. けんこう 健康に いい ことを していますか？





Q. 学習者が答えやすい質問にするには、どうしたらいいか、考えてみましょう。

『つながる にほんご』の質問	答えやすい質問
1. 「どんな毎日ですか。」	
2. 「今週、何か運動をしましたか。」	
3. 「ゆうべ何時間ねましたか。」	➡
4. 「今朝、何を食べましたか。」	
5. 「健康にいいことをしていますか。」	

## (2) 小刻み質問



ひらいた質問も答えにくいですが、とじた質問でも大きな質問だと、質問の意図を正確に捉えて一言で答えるのは難しいです。

日本は好きですか？

住んでいるといろいろあるし…。簡単には答えられないな…。



他にも…

大きな質問の例：△「日本料理は好きですか」

△「あなたの国では、紅茶とコーヒー、どちらをよく飲みますか」

△「〇〇人は、毎日△△を食べるんですか」

学習者は出身国の全てを知っているわけではないので、「国では？」  
「〇〇人は？」と大きく聞かれると、答えに窮することもあります。  
その場合、「〇〇さんは？」と学習者個人に対する質問にしたり、段階を踏んだ小さな質問（＝小刻み質問）を積み重ねていったりすると、学習者も答えやすいです。

ひらいた質問でも、大きな質問でも、小さな小刻みの質問を積み重ねていくと、最終的には聞きたかった答えに自然と行き着いたりします。




Q. 下に出したのは、『つながる にほんご』p19「2.1 話 何で来ますか」です。  
 「1. うちから教室まで何分ですか？」を学習者が答えやすい質問にするには、  
 どうしたらいいでしょう。

2 交 通  
 ~ 1話 何で来ますか ~

1. うちから 教室まで 何分ですか？

ある 歩いて？    じてんしゃ 自転車？    ばす バス？




歩いて


ある 歩いて + \_\_\_\_\_ 分です。

バス で \* 1,3,6,8,10,何 → ぶん

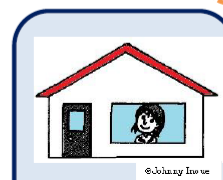
自転車 で




教室




うち



スーパー

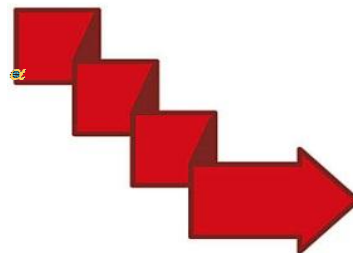


?



小刻みの質問にしてみると…

- ①うちから〇〇教室まで、歩いて来ましたか。
- ②電車で来ましたか。
- ③自転車で来ましたか。
- ④なにで来ましたか。
- ⑤私は自転車で〇分です。〇〇さんは、歩いて（〇〇で）何分ですか。



相手の反応や理解を確認しながら、段階を踏んだ小さな質問を重ねていくと、話のキャッチボールもでき、話題がふくらみます。



考えてみよう

Q. 次の質問を、学習者が答えやすい質問にするには、どうしたらいいでしょう。

1) 日本の生活に慣れましたか。


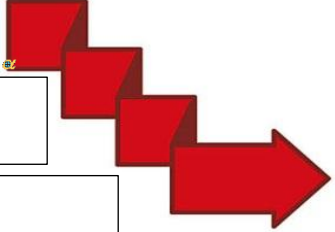
→ ①

②

③

④

⑤

2) お子さんは、元気に学校へ行っていますか。



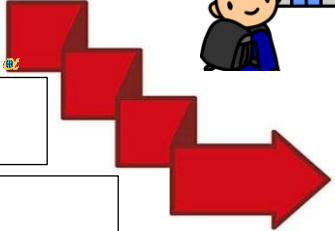
→ ①

②

③

④

⑤

### (3) 学習者が答えに困っているとき



学習者に問いかけても、答えるまでにとっても時間がかかることがあります。でも、答えられずに困っているからと、すぐに助け船を出しては、せっかく思い出そうとしているところを邪魔してしまうことになりかねません。

これでは学習機会を奪ってしまいます。答えに時間がかかる時、学習者の頭の中は、いろんなことが駆け巡っています。じっくり待つのもボランティアです。

答えに時間がかかる理由はいくつかあります。その理由によってボランティア側のサポートも異なるので、なぜ時間がかかっているのかを考えてみます。

理由①： 質問の意味（又は、意図）が分からない

お見舞いに行ったことがありますか？

お見舞いには、何を持っていくますか？



「おみまい」？

持っていきって、財布とか、携帯とか、持ち物のこと？

対応 →やさしい日本語に変え、もう一度、ゆっくり、はっきり、質問する。

- 語彙がわからないようなら、語彙説明をする。
- 意図がわからないようなら、状況や例なども加えてみる。



「“お見舞い”。病気の友だちに会いに、病院へ行きます。」



「病院にいる病気の友だちに、何を持っていくますか？私は、花や本を持っています。」



理由②： 質問は分かるが、答えるための日本語がわからない

チャプチェって、どうやって作るんですか？



作り方は知ってるけど、日本語でどう言えばいいのかな？

A. 答えるための日本語が未習

対応 → 答え（単語）の「母語→日本語」を、辞書などで一緒に調べる。

B. すでに知っている表現なのだが、忘れてるだけ

対応 → 出てくるまでじっくり待つ（待っても出てこない時はヒントを出す）。

理由③： 質問は分かり、答えられるが、社会背景の説明が必要だったり、相手との関係性などでどこからどこまで話せばいいか分からなかったりして迷っている。

インド人って、ヒンドゥー教でしょ？牛は食べないの？



民族や宗教によっても違うし…。それに、牛の概念が日本と違って、水牛は食べるし…。どこからどうやって説明しようか…。

対応 → 学習者の判断をじっくり待つ。



答える時間がかかる理由は、理由②B や③の場合もあり、相手からの言葉をじっくり待つことが、とても大切です。

「待つこと」は意外に難しいものですが、待っている間、ボランティアも外国語（英語など）でどう言うかを考えてみると、自然に待てるかもしれません。

### 3. 話題のヒント



『つながる にほんご』で扱われている話題以外にも、扱ってみたい話題がいろいろあるでしょう。新たな活動の話題を見つけ、その話題を豊かに膨らませ広げていくには、どうしたらいいでしょう。

話題って、どうやって見つければいいのか？



#### (1) 話題の見つけかた

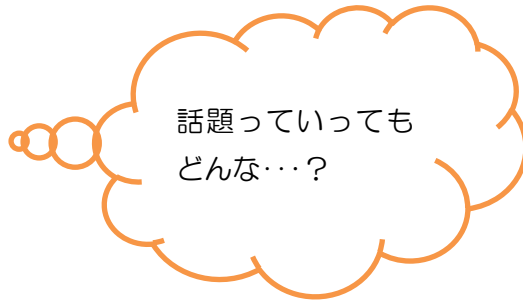
「学習者が興味を持つ話題、学習者に必要な話題、学習者が話せる話題」をリストアップしてみます。

- ① \_\_\_\_\_ ( )
- ② \_\_\_\_\_ ( )
- ③ \_\_\_\_\_ ( )
- ④ \_\_\_\_\_ ( )
- ⑤ \_\_\_\_\_ ( )
- ⑥ \_\_\_\_\_ ( )
- ⑦ \_\_\_\_\_ ( )
- ⑧ \_\_\_\_\_ ( )
- ⑨ \_\_\_\_\_ ( )
- ⑩ \_\_\_\_\_ ( )



グループ全員の興味に合わせるのは、難しいかもしれませんが、提示のしかたを工夫すれば、関心をもってもらえます。(映像、共有知識の利用など)

リストアップしたら、優先順位も考えてみよう。



**参考** 話題例① 互いのことを知るために〔対話編〕

- 互いのこと : 名前 (由来)、性格、家族、近所 (公園、スーパー)、家 (部屋)、仕事、好きな○○ (食べ物など)、趣味 (音楽、映画、スポーツ、まんが、小説、旅行、ダンス)、特技、得意料理、お気に入り (マイブーム)、習い事、食事、健康、記念日、ペット、夢、民族衣装
- 互いの国のこと : 気候、行事、有名なところ、食べ物、民族、言語、習慣、文化、芸能、祭り
- 地域のこと : 面白い場所、無料 (格安) の穴場 (公共施設など)、安くておいしい店
- 経験したこと : 最近の出来事、旅行、子どもころ、びっくりしたこと、困ったこと、初めての○○、日本に来て一番○○、今までの人生のこと
- 日常生活 : 買い物 (店)、私の1日、休みの日、家事、テレビ番組
- 語り合い : 理想の恋人、時間の使い方、「もしも〜たら」、日本の不思議なこと、環境問題、子育て、プレゼント、食文化、食の安全、色、携帯電話マナー



話題を考える前に、「何のために活動するのか」＝活動目的をしっかり決めておくと、活動のイメージが湧きやすいです。

例えば、「互いを知る」、「○○を理解する」、「○○を知る」、「○○できるようになる」、「○○を楽しむ」、「日本語上達」、「○○能力を高める (挑戦)」など…

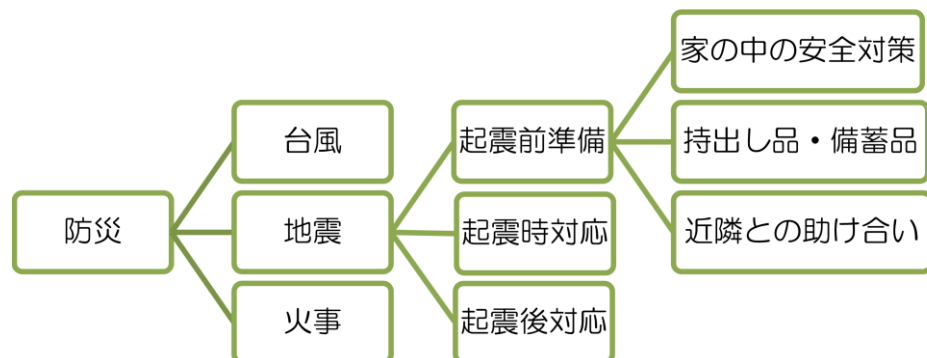
活動目的は、活動メンバーによっても異なり、活動ごとに異なることもあるでしょう。最終的な活動目的を意識しながら活動を考えていましょう。

参考 話題例② 日本社会で生活するために〔Can-do 編〕

- 健康 : 病院、病気、薬、体にいいこと（食べ物、運動）、生活習慣病の予防
- 安全 : 防災（地震、火事、台風など）、事故・けがの手当、救急車
- 生活 : 衣食住、買い物、ごみ、水道・ガス・電気、銀行、郵便局、税金、天気予報
- 移動 : バス、電車、車、タクシー、自転車、歩き、飛行機、船、空港、駅、バス停
- 人とつき合う : あいさつ、町内会、PTA、職場、贈答、年賀状、冠婚葬祭、飲み会
- 公的手続き : 在留資格更新、住民登録、各種届出、役所、大使館
- 地域参加 : 地域の祭り（盆踊りなど）、地域の清掃、防災訓練、学校の行事、バザー、公民館
- 余暇 : 趣味、社会活動（ボランティアなど）
- 通信 : 電話、携帯電話、FAX、Eメール、インターネット、手紙、小包、郵便、電報、送金、宅急便
- 子育て／教育 : 出産、子育て、保育園（幼稚園）、小中学校、高校、大学、PTA  
進学、教育システム、奨学金、学資保険、学資ローン
- 学ぶ : 日本語、資格・免許（運転免許、介護福祉士など）
- 働く : 就職活動、履歴書、面接、敬語、電話対応、人間関係



「防災」の話題でも、以下のようにさらに話題は広がります。



全部を扱おうとせず、的を絞るといいですね。

## (2) 話題の広げかた

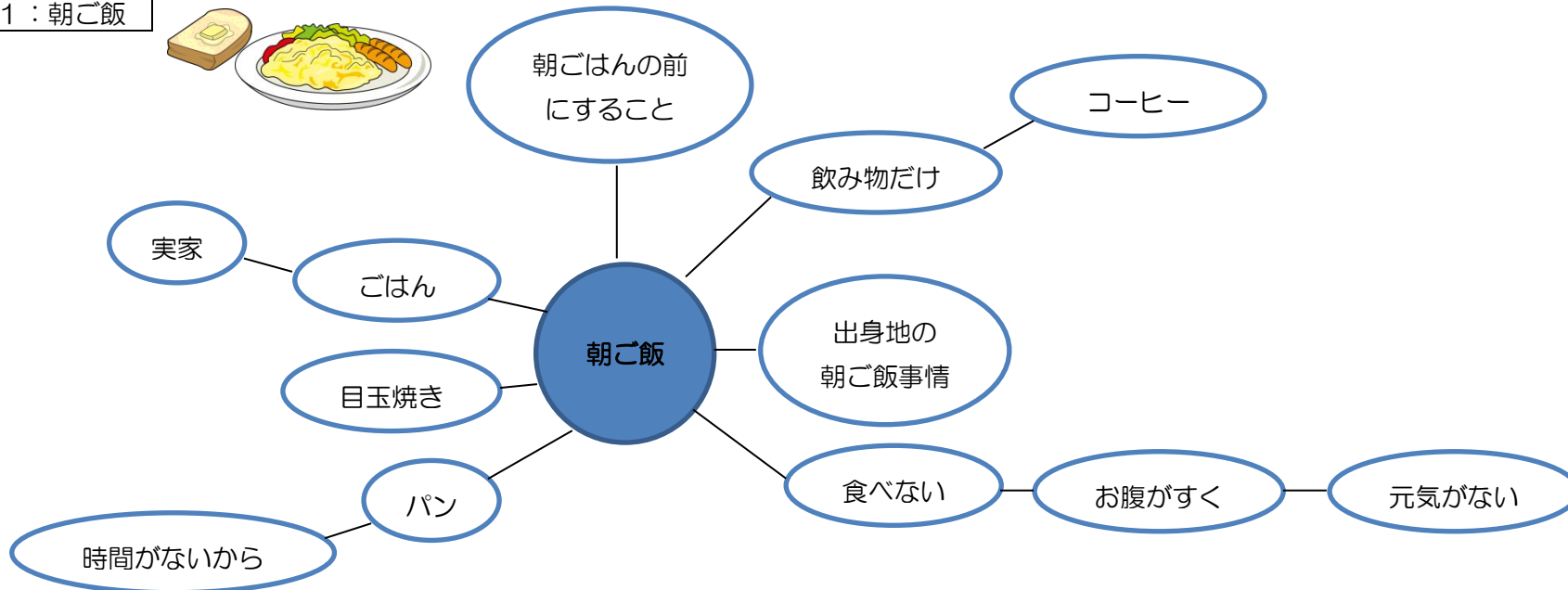


話題が決まったら、その話題をどのように、どこまで扱うかを考えます。まずは、自分の中で話題を自由に広げて考えてみます。その後、広げた中から扱う範囲を決めます。  
アイデアを広げるために、「アイデアマップ」という方法があります。

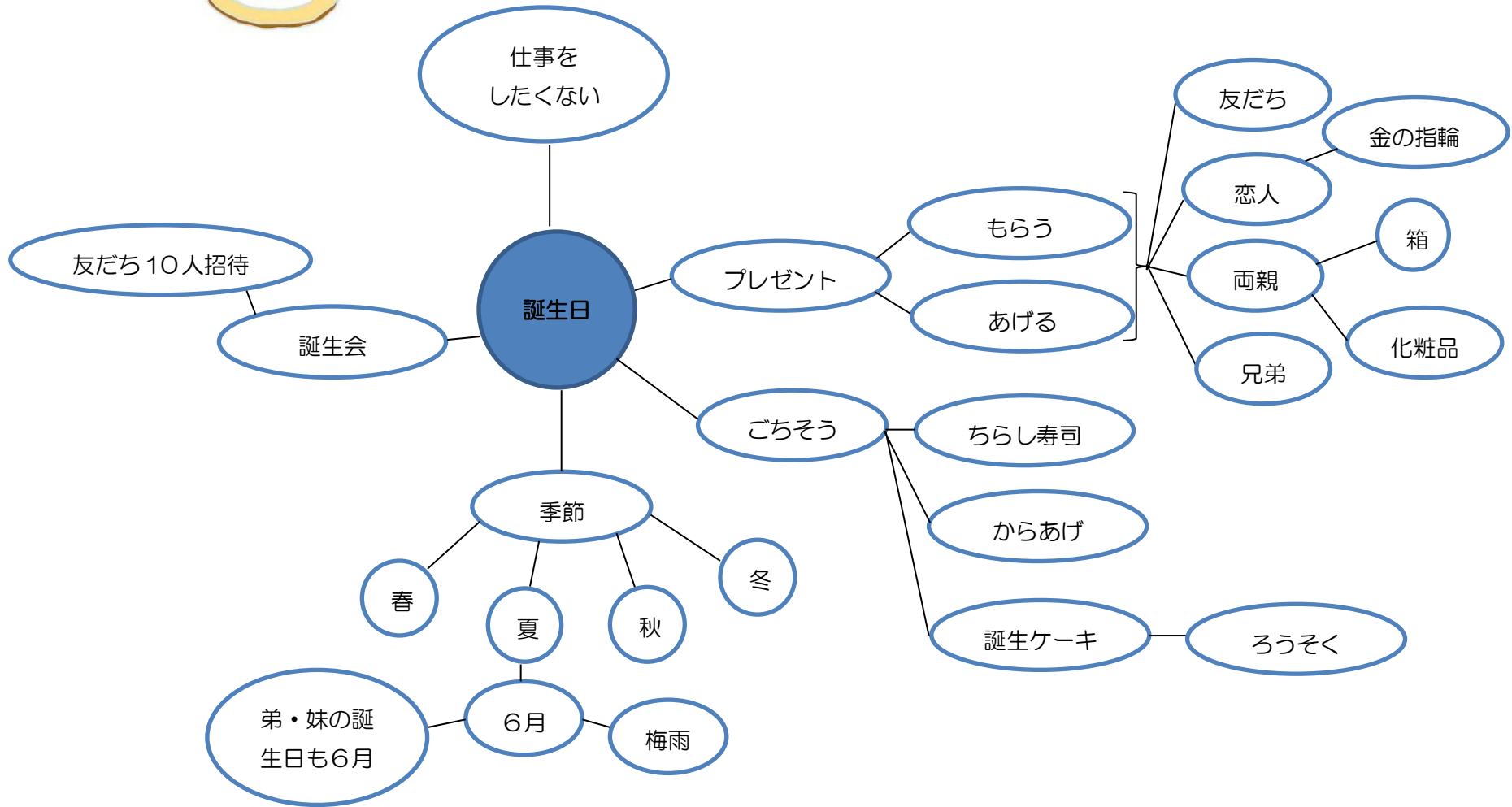
### 「アイデアマップ」の手順

- 1) 白紙の真ん中に話題（例：朝ご飯）を書き、その周りに放射線状に線を引き、連想する言葉を自由に書いていきます。まだアイデアを出す段階なので、あまり考え込まず、思いつくままにどんどん書きます。

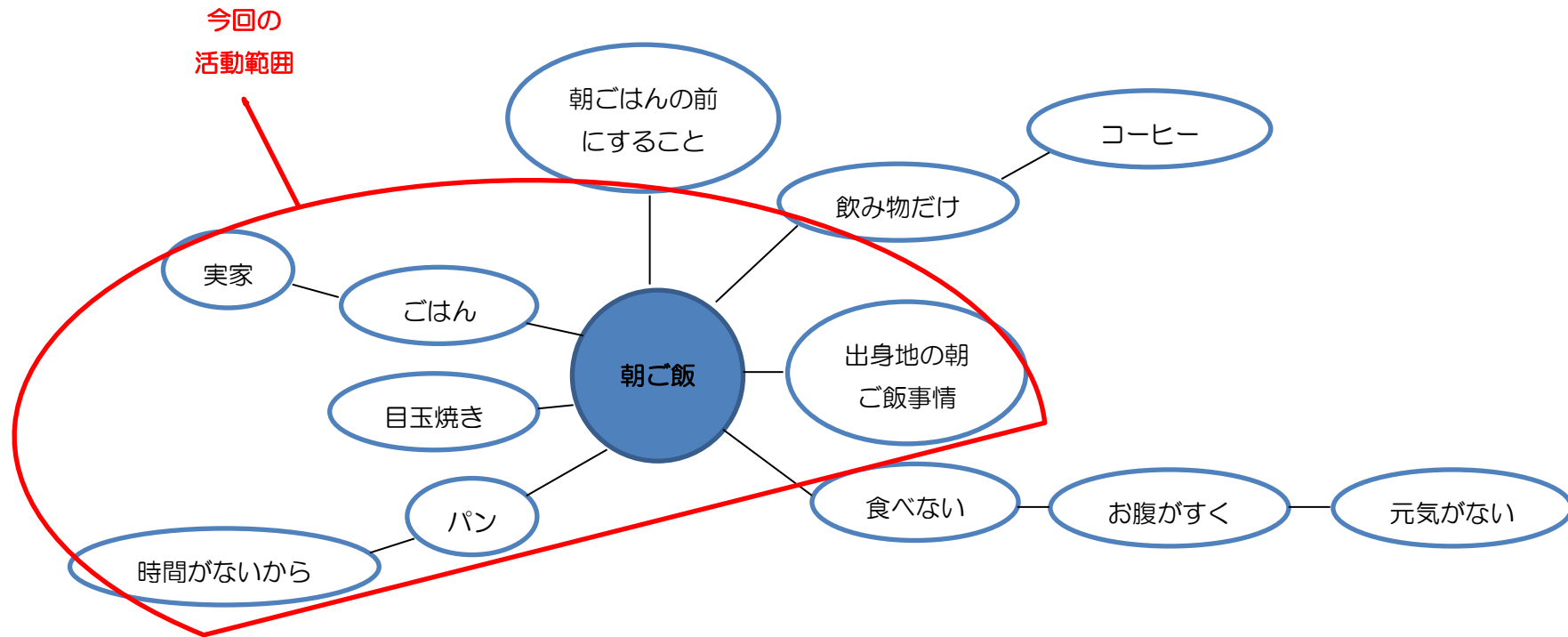
#### 例1：朝ご飯



例2：誕生日



2) 話題のイメージが広がったら、その中からどの部分を教室活動で扱うか考えます。



個人的なことでもいいので、どんどん書いてみて、活動の種を作ります。その後、学習者の興味がありそうな範囲を切り取って、アイデアを大きく育てましょう。

### (3) 話題の深めかた

活動のテーマ範囲を考えたら、相手とのやりとりが一问一答で終わらないよう、話の深め方をイメージしましょう。



テーマを深めるには、相手の答えを拾って、質問を重ねていく方法があります。(例 A:誕生日は6月です。→B:6月は暑い季節ですか。)それでもなかなか思い浮かばなければ、「いつ、どこ、だれと、なぜ、A or B? 故郷では?」などを入れて聞いてみてはどうでしょう。

例①:



今朝、朝ご飯を食べましたか?

食べました。

何を食べましたか?

卵。焼きます。

目玉焼き? 卵焼き?

?

(イラストを描いて)「目玉焼き」?

そうそう、めだまやき。

ネパールでも、同じですか?

違う。ミルクティー。

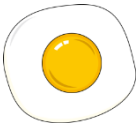
ああ、牛乳がたくさん入った  
甘いミルクティーでしたよ  
ね。ネパールでもミルクっ  
て、スーパーで買うの?

朝、売りに来ます。6時。朝だけ買います。

え? 朝だけ? 朝、買えなかったら?

次の朝。店にありません。

ええー。じゃ、起きるのが遅い私は買えないな。







大丈夫。私が買います。(笑)



買ってくれますか？(笑)

買ってくれます。(笑)

「買ってあげます」

あ、買ってあげます。

ありがとう。(笑)

例②：



誕生日は、何をしますか？ 私は、ケーキを食べます。

私も、ケーキ。そして、餃子を食べます。



いいですね。誰が作りますか？

私、作ります。

え？どうして、○△さんが作りますか？

誕生日だから、みんな、招待します。

え？中国では誕生日の人がごちそうするの？

はい。日本は違いますか？



日本は、家族が作るか、レストランへ行きます。じゃ、次の誕生日は招待して下さいね。(笑)

ここは日本ですから、どっちがごちそうしますか。(笑)



質問してもやり取りが続かず、学習者の答えに「あ、そうですか」で終わってしまうのは、もったいないです。せめて、2、3往復のやり取りができるといいですね。

また、一方的に質問するだけでなく、自分の話も例として入れながら話を進めると、学習者にも分かりやすいでしょう。

そのうち、学習者からも質問が出てくると、やり取りが活発になり、学習のためではない本物の対話になっていきます。

## コラム「ボランティアも“わたし”らしく」



「朝ご飯だの誕生日だのって、苦手だなあ」と頭を抱え込む方も多いかと思います。日本語が覚束ない学習者に向けた話題はどうしても日々の生活のことに限られがちです。人の朝ご飯を尋ねるなんて、わざとらしいし、無意味だ、とお感じになるかもしれません。特に男性ボランティアには、ゴミの出し方や近所のスーパーのことなどをあまりご存じない方もいらっしゃるかもしれません。

ボランティアをするご本人が、あまりにも自分らしくない話題だとお感じであれば、日常些末な話題にこだわることはありません。とって、会社でしていたのと同じような雑談ではなかなか学習者に通じないでしょう。

そんなときは、ご自分の若いときからの趣味、あるいは趣味というほどではないけれど、それなりに得意なこと、「これはパパに頼もう」とご自宅で言われるようなこと…そんなことを思い出してみてもいいでしょうか。

「けさ、ベランダでトマトを摘みました」など、ちょっとしたことでいろいろな方面に広がります。「トマトは好きですか」でも「料理に使いますか」でも「自分で野菜を作ったことがありますか」でも…。

お仕事からみて法律に詳しいのであれば、「あなたの国では結婚したとき役所に届けますか」、「どんなことを届けますか、証人はいますか」「日曜日でも受付けますか」など尋ねながら、日本ではこうですよ、と簡単に説明するのもよいでしょう。

税金やローンのことを知りたい学習者もいます。

ボランティアの自分らしさ、これまでの人生経験が活かされるのはとても大切なことです。

そして、もう一つ大切なことがあります。

**しゃべりすぎない**ことです。

自分らしい文脈で話題が広げられることがわかると、ついつい話しすぎる人もおられますが、「過ぎたるは及ばざるがごとし」という言葉もあります。成功の秘訣は、言いたいことの半分くらいに留めることでしょうか。

## 4. 文法の扱い

この教材って、文法がほとんどないけど……。文法はやらなくてもいいの？  
でも、それで日本語が上手になるのかな。



『つながる にほんご』は、文法文型を学ぶために構成された教材ではありません。  
しかし、「文法はいらない」ということではありません。



『つながる にほんご』では、文法ルールを学習してから日本語を使おうとするのではなく、日本語を使いながら、必要な時に必要な文法文型などを学習してほしいと考えています。文法は場面との結びつきが大きいからです。  
では、必要な時とは、いつでしょうか。

文法学習が必要な時①： **明らかに間違っていて、意味が伝わらないとき**

前に、京都に行くことがあります。

例

「前に、京都に行ったことがあります。」？  
「時々、京都に行くことがあります。」？



●文型「～たことがある」の学習チャンス！！●

文法学習が必要な時②： **人間関係でマイナスになるとき**

先生、お茶、  
飲みたい？

例

年上の人には、「です・ます」で丁寧に話します。年上の人に「～たいですか。」は、失礼なので、使いません。

だから、「先生、お茶を入れましょうか。／お茶はいかがですか。」といいます。



●敬語表現の学習チャンス！！●

学習者にそんなつもりはなくても、聞き手によくない印象を与える表現を使っている場合には、そうならない表現があることを伝えます。

ただし、わかっている、あえてその表現を選択している場合もあるので、最終的な判断は学習者の意思を尊重しましょう。


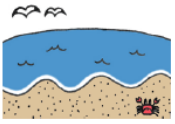


文法学習のチャンス： **学習者が「わからない（知らない）。なんだろう、それ？」と思ったとき**

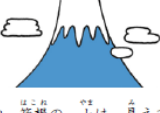
～ 4話 私の町 ～

1. あなたの町は？

(1) 海が見えるところはありますか？



(2) ふじ山が見えるところはありますか？



大山や 箱根の 山は 見えますか？

① はい、あります。  
\_\_\_\_\_から 見えます。  
② いいえ、ありません。

『つながる にほんご』 1.4話 私の町 (p14)

「見ます」「見えます」??  
同じですか？

例

いいえ、違います。

例えば、これから雨が降るかどうか、知りたいです。(窓のそばに行って)「窓の外を見ます」今、窓のそばにいます。何が見えますか？

「コンビニが見えます」「たくさんのビルが見えます」「車の音が聞こえます」うるさいので、聞きたくないです。でも、「聞こえます」。



●「見る／見える」を学習するチャンス！！●

学習者に「知りたい」という気持ちがあるときは、学習のチャンスです。学習チャンスのアンテナをいつも張っておくと、機会を逃しません。

日本語だけで説明する場合、文法説明はできるだけ簡単にして、はっきりと違いがわかる例文を示します。例文は、学習者がメモしておけば、自宅学習する時の手がかりにもなります。



## コラム「人間として、レベルアップできる日本語」

ミカさん(30歳代女性)：11年前に日本人と結婚、子どもがいる。



日本語が初級だったころ、難しいこともたくさん教わりました。「あなたは、これから妻として母として、日本で生きていくのだから、難しい日本語も覚えなきゃならない」と言われ、初級だったけど難しい日本語も教えてもらいました。でも、それがとても良かった。先生は「初級だから、これは教えなくていい」とは考えず、私の状況（子供がいて、保育園に行っている）から、保育園への電話のかけ方やお便り帳の書き方を教えてくれ、その時、「いつもお世話になっています」という挨拶も教わりました。その後、たまたま、スーパーで店員さんの電話対応が聞こえ、このフレーズが聞き取れた時はすごく嬉しかったですね。すぐ自分でも使ってみると「ミカさんの日本語はきれいですね」とほめられ、海の上を歩いているような、嬉しい気持ちになりました。

初めは「こんにちは。〇〇ちゃんのママです。」だけで、子どもみたいな日本語だったけど、初級でも、一言でもきれいに話せると、人間としてレベルアップしてみえますね。

母国では自然を感じるのが大好きだったのに、日本に来たばかりのころは、空や木の緑なんかどうでもいいと感じました。「景色は心の食べ物」だけど、毎日をこなすのが精一杯の時は、病院や安いスーパー、近隣イベントなど、生活情報の方が知りたいです。花の名前より、生活で使える言葉の使い方を教えて欲しいと思いました。

日本語初級の学習者でも、生活に必要な日本語は初級の範囲に限られません。日本語初級者でも、自分にとって必要なことは覚えたいでしょうし、必要性があるからこそ難しくても覚えられます。その人らしく生きていくために必要なことだったら、日本語レベルに関係なく、学習する機会を作りましょう。

日本社会で生活している学習者は、それぞれに必要な日本語が異なり、それは教科書の範囲とは違います。だからこそ、日々の活動のやり取りの中で、目の前の〇〇さんの必要なもの、欲しているものに心を傾けることが大事なのではないでしょうか。

